

ねらい

今日的な教育課題や教職員の多様なニーズをもとにした研修を実施するとともに、本市の教育課題に対応した研修講座，職種や教職経験年数（ライフステージ），職務内容に対応した研修講座を充実し，教職員の資質・能力の向上をめざしています。

現状と課題

教職員研修講座数・日数，参加者数

平成20年度は連続型の講座を中心に据えながら 講演会形式から 対象を絞った参加・体験型，実技・演習型の研修会に移行しました。また，ICT研修では，希望する小中学校21校において 出前講座形式の研修会を実施しました。

これにより，平成19年度に比べ，講座数・日数とも増加しました（図1）。参加者数が減少したのは，対象者を絞った研修会形式としたためです（図2）。

図-1 【講座数・日数】

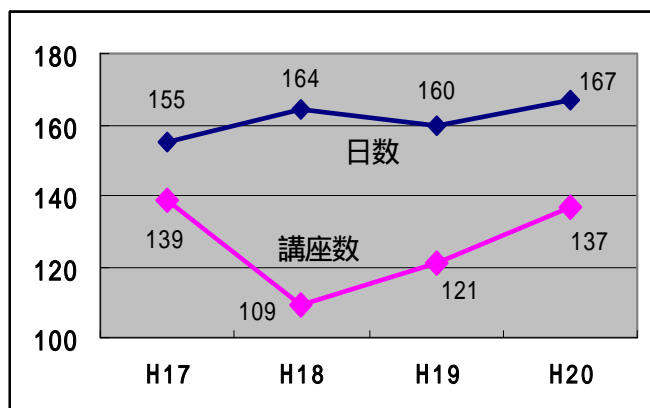
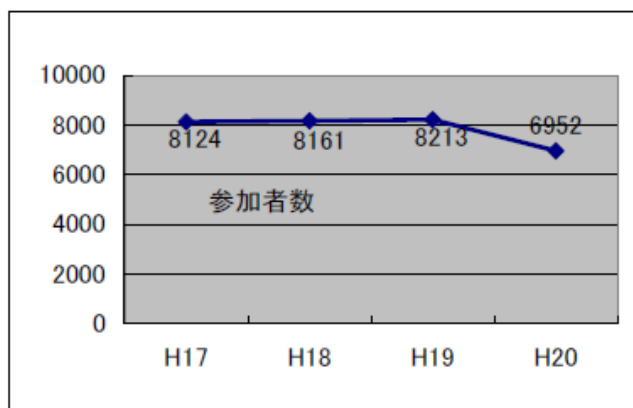


図-2 【参加者数】



教職員研修講座の内容・形式

平成20年度の研修講座は，以下の4つの内容で構成しました。

「基本研修」：ライフステージや職能に応じて必要な資質・能力を身につけるための研修（基礎研修，職能研修）

「専門研修」：各教職員が知識・技能の習得レベルや個々のニーズに応じて専門的知識・技能を習得する研修（教科等に関する研修，領域等に関する研修，重点教育課題研修）

「特別研修」：教職員としての幅広い資質・能力の向上をめざす研修（アカデミック研修等）

「その他の研修」

「基本研修」とそれ以外の研修を組み合わせ受講することによって，総合的に教職員の資質・能力の向上をめざしました。

研修講座の形式は，A「講義・講演型」，B「参加・体験型」，C「実技・演習型」で構成されており，教職員の実践的指導力の向上をめざしたB

図-3 【実践を持ち寄った演習型研修】



第4章 教育活動を支えるもの

およびCの形式の講座を充実させています。具体的には、少人数ワークショップ（意見や技術の交流を行う研修会）や実践事例を基にした実技・演習など、学校・園の現場における実践につながりやすい形式を増やしています（図3）。

特に、平成20年度は、連続講座を充実させました。連続講座とは、講師の手法や理論を学び、自らの実践で活用し、その経験を講座の中で交流することで、力量を高める研修です。平成20年度は、「小学校英語活動研修」「学力向上・授業づくり研修」「特別支援教育コーディネーター基礎研修」「キャリア教育研修」「人権・同和教育研修」「不登校研修」「情報教育研修」など9つの連続講座を実施しました（図4）。

図-4【連続講座の様子】



ライフステージに応じた教職員研修の充実の必要性

すべての教職員が、自分のライフステージに応じた身につけるべき資質や能力、必要とされる具体的な力を意識し、目的意識を持ちながら研修を推進する必要があります。また、個々の教職員の実践的指導力を効果的・効率的に向上させるとともに、組織としての学校の教育力を向上させるため、教育センター研修と校園内研修・OJTとの関連をより一層深める必要があります。

今後の改善方針

ライフステージに応じた教職員研修の充実

平成20年度に改訂された「四日市市学校教育ビジョン」に基づき、ライフステージに応じた教職員の資質向上をめざすとともに、それに対応した教職員研修体系の再構築を進めます。具体的には、講座募集対象をライフステージ別に設定する、講座選択のための研修ガイドを作成するなど、受講者が自ら身につけるべき資質・能力を意識し、目的意識を持って受講できるような構成にします。

校園内研修と関連した個人研修の推進

個人研修の効果的な推進のため、「教師力向上サポートブック」を作成し、その活用を図ります（図5）。これは、本市独自に開発した研修の手引書です。本書の活用により、教職員としての専門性や実践的指導力、幅広い社会性や柔軟な発想、対人関係のスキルなどを養うような研修を促し、本市教職員の更なる資質向上をめざします。

また、個人研修の学校・園による支援を促し、教育センター研修と校園内研修・OJTとの関連を図ります。

図-5【教師力向上サポートブック】

